

大腸がん検診の実績について ～過去10年間の統計から～

公益財団法人宮崎県健康づくり協会

若松遥香、坂下香代子、佐藤寿、松下睦美、松尾知章、湯田敏行

日本におけるがんの状況

- 一生のうちにがんと診断される確率（2020年データ）
男性 62.1%（2人に1人） 女性 48.9%（2人に1人）
- がんで死亡する確率（2023年データ）
男性 24.7%（4人に1人） 女性 17.2%（6人に1人）
- 部位別がん罹患数
男性 1位 前立腺 2位 大腸 3位 肺
女性 1位 乳房 2位 大腸 3位 肺
- 部位別がん死亡数
男性 1位 肺 2位 大腸 3位 胃
女性 1位 大腸 2位 肺 3位 膵臓

大腸がん検診

〈目的〉

健常者を対象とし、前臨床期がんを発見して治療を行う。
集団においてがんによる死亡率を、
個人においては各人のがんによる死亡リスクを低下させる。

- 対象年齢 40歳以上
- 検診間隔 1年に1回
- 免疫便潜血検査2日法

- 測定機器 ヘモテクトNS-Prime
- 測定原理 金コロイド比色法
- カットオフ値 100ng/mL

対象

- 受診者数 2014年4月～2024年3月
272,020人（男性137,942人、女性134,078人）
- 検体1本のみ提出者
…11,803人（4.34%）
- 検体2本提出者
…260,217人（95.7%）

検診結果

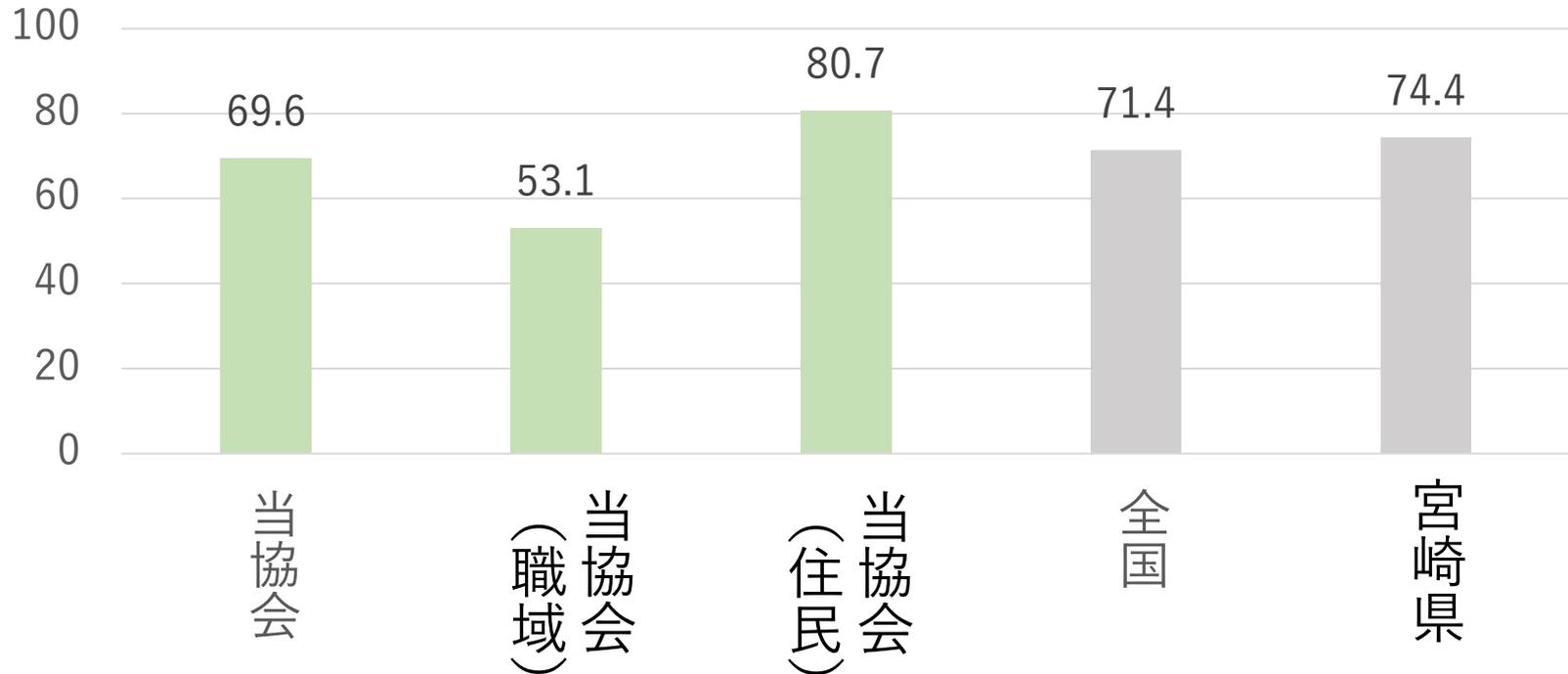
区分	A 検診受診者数	検診結果		D 要精 検率 %	E 精 検受診者数	F 精 検受診率 %	G 大腸がん	I がん発見率 %	陽性反応適中度
		B 異常を認めず	C 要精 検						
男	137,942	127,576	10,291	7.46%	6,746	65.6%	234	0.17%	2.27%
女	134,078	126,562	7,416	5.54%	5,582	75.3%	146	0.11%	1.97%
合計	272,020	254,138	17,707	6.51%	12,328	69.6%	380	0.14%	2.15%

許容値・新基準値との比較

	当協会結果	許容値	新基準値
要精検率	6.51%	7.0%以下 ◎	6.8%以下 ◎
精検受診率	69.6%	70%以上 ✕	90%以上 ✕
がん発見率	0.14%	0.13%以上 ○	0.21%以上 ✕
陽性反応適中度	2.15%	1.9%以上 ◎	3.0%以上 ✕

精検受診率

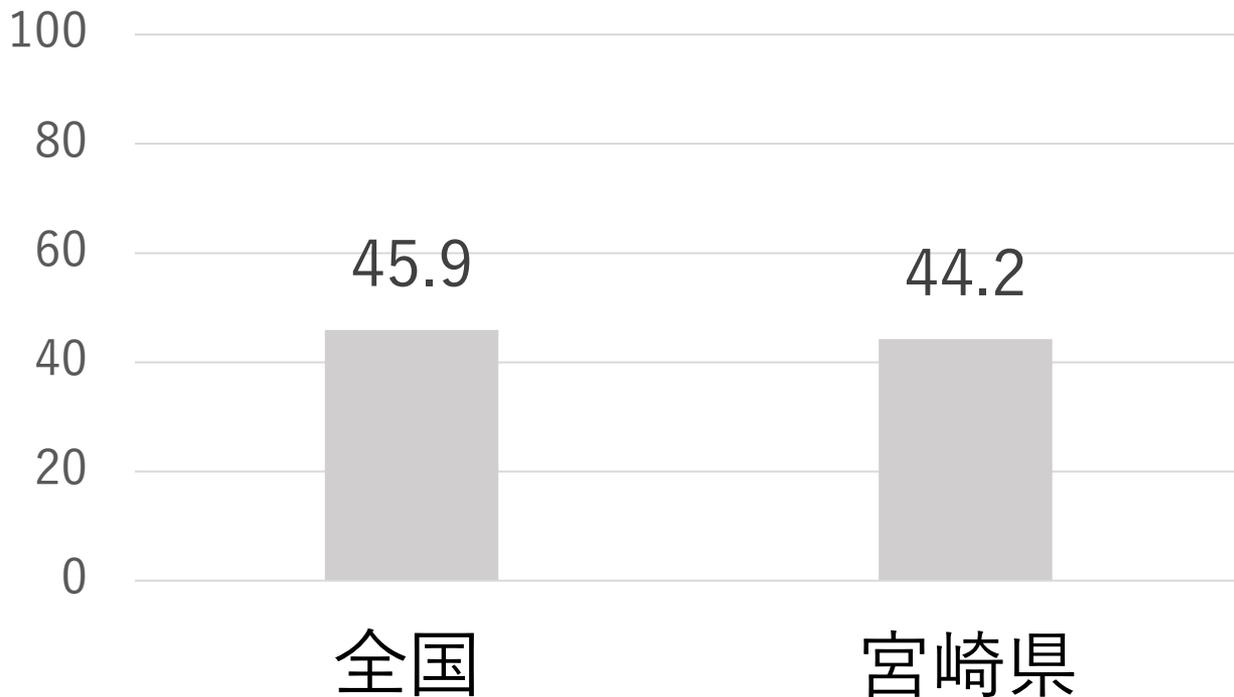
新基準値：90%以上



全国的にも70%前後 基準値には程遠い
当協会の職域健診の精検受診率が低い

受診率

基準値：60%以上



受診率も低い

年齢階級・男女別大腸がん

年齢	～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
受診者数	16,930	51,110	54,076	76,250	56,444	17,210	272,020
男	10,572	27,537	26,575	36,884	27,615	8,759	137,942
女	6,358	23,573	27,501	39,366	28,829	8,451	134,078
発見がん数	3	27	55	126	132	37	380
男	2	14	37	80	73	28	234
女	1	13	18	46	59	9	146
陽性反応適中度	0.41	1.23	1.87	2.46	2.84	1.89	2.15
がん発見率(%)	0.02	0.05	0.11	0.17	0.21	0.21	0.14
男	0.02	0.05	0.14	0.22	0.27	0.32	0.17
女	0.02	0.04	0.09	0.13	0.16	0.09	0.11

- 60代・70代が多い（67.9%）
- がん発見率、陽性反応適中度も同世代で高い

精密検査結果

大腸がん 380人 (3.08%)



早期発見が可能である

精密検査結果

がん以外の疾患 8,197人 (66.5%)

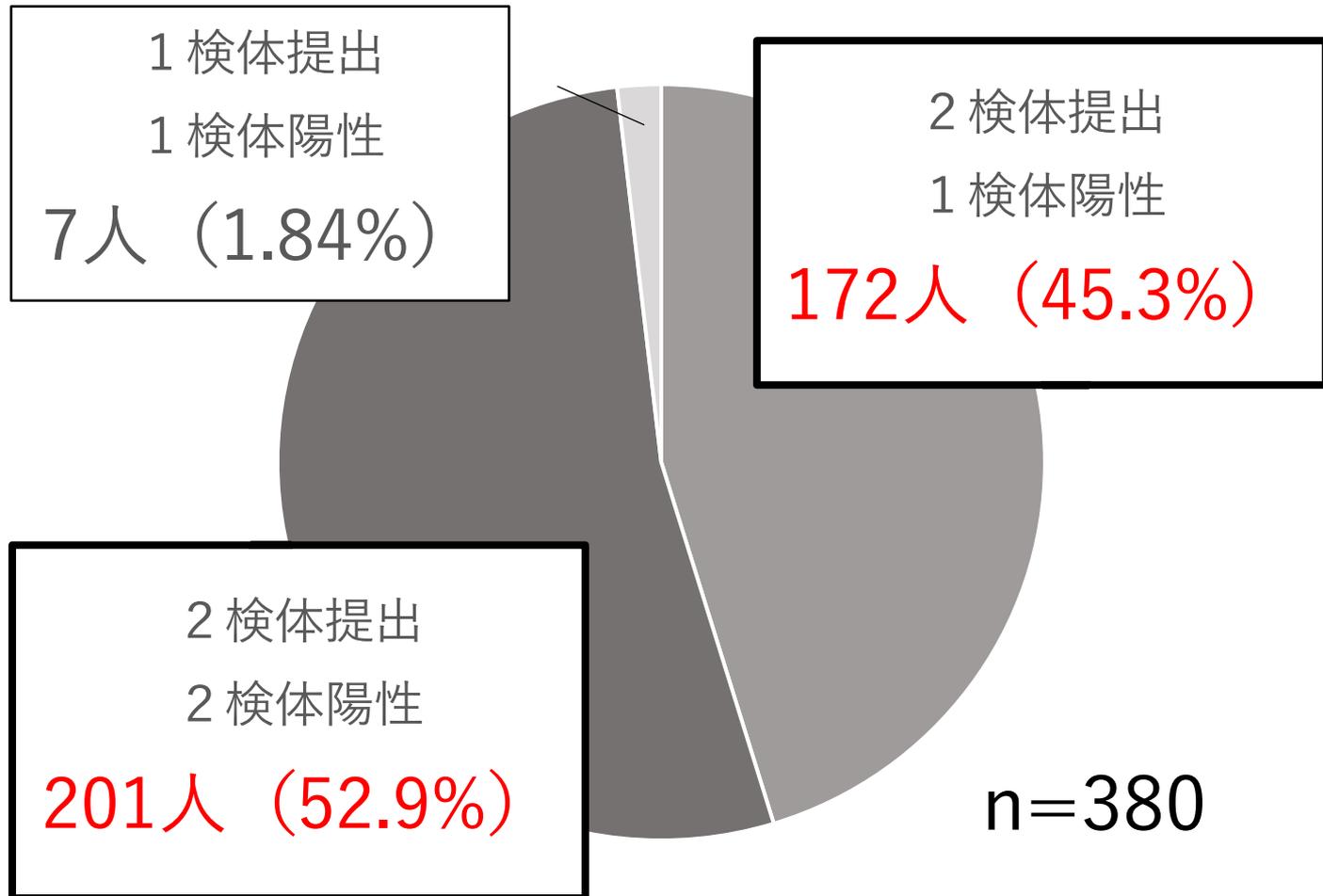
1位 腺腫 5,575人 (45.2%)

2位 大腸憩室 1,247人 (10.1%)

3位 非腺腫ポリープ 665人 (5.39%)

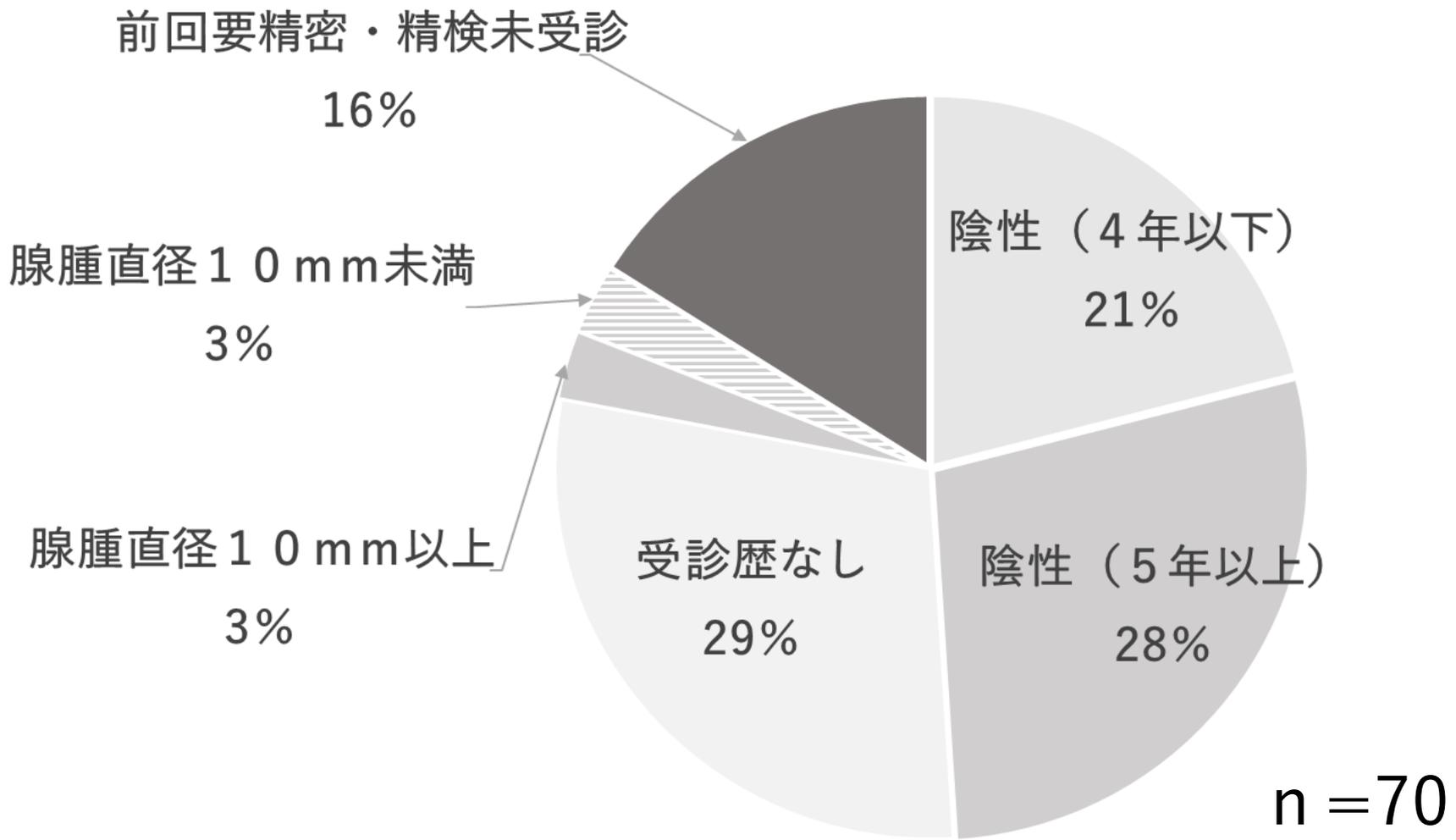
4位 その他の疾患 (痔など) 620人 (5.03%)

大腸がん確定者の提出検体別の陽性率



検体を2本出すことが大切

2022年度・2023年度のがん確定者の過去歴



毎年検診を受けることが大切

まとめ

- ・ 検診受診率・精検受診率が低い
- ・ 大腸がんは早期発見可能ながんである
- ・ 早期発見のために便潜血2日法での毎年の検診は有用



大腸がん検診の普及啓発を行い、

検診受診率・精検受診率の向上に取り組んでいきたい。

特に職域健診と働く世代の精検受診率を上げる必要がある。